

## 富津市献血推進協議会会議録

1	会議の名称	令和5年度富津市献血推進協議会
2	開催日時	令和5年7月21日（金） 午前10時30分～11時30分
3	開催場所	富津市役所 2階 第1委員会室
4	審議等事項	議題 (1) 令和4年度富津市献血推進協議会 事業実績報告書 (2) 令和5年度富津市献血推進協議会 事業実施計画（案）について その他 千葉県の献血状況について
5	出席者名	献血推進協議会委員（11名） 高橋恭市（富津市長）、石井太（富津市健康福祉部長）、 橋本茂（日本製鉄株式会社技術開発本部）、野瀬明宏（黒 田精工株式会社富津工場 横山龍巳の代理出席）、安田俊 司（ハヤシレピック株式会社）、松本晃一（富津市商工 会）、溝口智（富津ライオンズクラブ）、大野泰代（富津 市赤十字奉仕団・富津市連合女性会）、青木恵（千葉県 立天羽高等学校）、川口泰明（富津地区区長会）、角田安 隆（富津市消防長） 千葉県赤十字血液センター（1名） 土屋啓之（事業課参事） 事務局（3名） 地引憲太郎（健康づくり課長）、平野智裕（保健予防 係長）、荒井脩杜（主事）
6	公開又は非公開の別	<u>公 開</u> ・ 一部非公開 ・ 非公開
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	0人（定員10人）
9	所管課	健康福祉部健康づくり課 電話 0439-80-1268
10	会議録（発言の内容）	別紙のとおり

令和5年度富津市献血推進協議会会議録

発言者	発言内容
地引課長	<p>資料の確認            会議の公開について説明            本日の傍聴人はいない。</p> <p>令和5年度富津市献血推進協議会の開会を宣言            本日の会議が15名の委員のうち、出席委員11名、欠席委員4名で、会議が成立することを報告            委員、千葉県赤十字血液センター職員及び事務局職員の紹介</p>
高橋会長	<p>会長挨拶</p>
地引課長	<p>議事進行が、協議会設置要綱第6条により会長であることを説明</p>
高橋会長	<p>議長を務めさせていただく。            会議録署名委員の指名。氏名は会長一任でよろしいか。</p>
各委員	<p>異議なし</p>
高橋会長	<p>会議録署名委員に、橋本委員と溝口委員を指名            次第4、議事に入る。            議題（1）令和4年度富津市献血推進協議会事業報告書について、事務局の説明を求める。</p>
平野係長	<p>資料により説明            （説明要旨）            令和4年度富津市献血推進協議会事業実績報告            400ml献血 990名            県目標の約210%、市目標の約83%の達成            200ml献血 11名            県目標の約92%、市目標の約92%の達成            合計 1,001名            県目標の207%、市目標の83%の達成            23会場で実施            受付 1,099名、不採血者 98名</p>
高橋会長	<p>質問があればお願いしたい。</p>
川口委員	<p>目標数の設定に方法について、2つ質問がある。            1つ目が、どのように目標数を決めたか。            2つ目が、県の目標数は、県が示している市の目標数で間違いな            いか。</p>

平野係長	<p>市の目標数は、当該年度の県目標と前年度の富津市の実績を基に算出している。</p> <p>県の目標数は、国の献血の確保目標量を基に、県内各市の昼間人口の按分比率に従って算出していると聞いている。血液センターさんから補足があれば願います。</p>
土屋参事	<p>昨年度までの病院にお届けした血液の本数が基になる。それに対して、係長さんのお話のとおり、昼間の人口で按分させていただいて決めている。</p>
川口委員	<p>心配していたことなのですが、目標値というのは、需要に則して決めてるのかなと思ひまして。</p>
土屋参事	<p>質問のとおりになる。あくまでも、昨年度の血液の使用量。それに合わせて、使用量が伸びているため、これだけの献血をお願いしていかないと間に合わなくなるということで目標数を設定させている。</p>
高橋会長	<p>本市においては、目標数を倍上回るくらいに設定しているのですが、県全体に目標を定めたときに、大きな自治体の目標は全く達成できないという自治体もあるということによいか。</p>
土屋参事	<p>過去の実績を見ると、大きな市の方では、実績が100%に届いていない。先日、東庄町の献血推進協議会に出席させていただいたのですが、そちらの方では、県目標に対して、300%くらいの達成率している形になっている。年に2回献血を行うと目標は達成できてしまう。しかし、他の市では目標達成できないので、どうするのという話は、こちらの方でも出ている。目標だけ取ってればいいのという話ですけど、先日行った東庄の方が、「治療に行くのはどこの病院。東庄の中でやるの」という話になったときに、あの地域の近辺だと、旭中央病院が大きな病院となっていて、そうすると、旭中央病院での必要量は取れているのかとなると、そうになっているわけでもない。そのため、お願いできるところで、多くの方にご協力いただき、他のところと協力して、取っていただければとお話をさせてもらっているのですが、やはり、うちのところでは取れているのに、他では全然取れていないじゃないかという不満は、出てくる。</p>
高橋会長	<p>血液が不足していますというお話をよく献血の時にお聞きするのですけれども、私たちは目標をかなり上回っていて、それが余っている状況にないということは間違いないか。</p>
土屋参事	<p>間違いない。後ほどお話をさせていただくのですが、配布資料の</p>

	<p>「千葉県の供給・献血状況」裏面中段に、「いつも献血のお願いをしているのは、なぜ」とありますが、毎日毎日献血をお願いしていかないと足りなくなってくる。どうしても有効期限があるものなので、一度にたくさんいただいても、有効期限が近くなると足りなくなるということで、日々同じくらい、使用量に合わせて、献血をお願いしていかないといけない。あとは、血液型の不均衡がある。</p>
高橋会長	<p>他に質問がないため、令和4年度富津市献血推進協議会事業実績報告については承諾いただきたい。</p>
各委員	<p>異議なし</p>
高橋会長	<p>それでは次に移る。  (2)の令和5年度富津市献血推進協議会事業実施計画(案)について、事務局の説明を求める。</p>
平野係長	<p>資料により説明  (説明要旨)  令和5年度富津市献血推進協議会事業実施計画(案)  県目標  400ml献血 457名  200ml献血 15名  合計 472名  市目標  400ml献血 960名  200ml献血 15名  合計 975名  今後の取り組みといたしましては、赤十字血液センター様と協力して、一般の方が多く会場にお越しいただける、新たな会場の設置など、検討していきたいと考えている。</p>
高橋会長	<p>質問があればお願いしたい。</p>
橋本委員	<p>令和5年度の計画のことで、7月と11月に献血が予定されていないんですけど、これは問題ないのか。先ほど、有効期限が1か月とお聞きしたのですが。</p>
土屋参事	<p>献血のことなのですが、ご協力いただける方なんですけど、男性で1,200ml、400mlの献血が3回までとなっていて、同じ日に設定してしまうと、間隔的に足りなくなって、お願いできない方が出てくる。それから、他の市町村と調整しながら、この月でないとお願いできないというのがあれば、そちらを優先させていただいて、決めている。</p>

橋本委員	<p>目標を大幅に達成しておりますので、市へのメリットはないのか。例えば表彰されるとか。</p>
土屋参事	<p>以前は、献血の実績に対して助成金が出ていた。人数が多ければ助成金の金額が上がるもの。しかし、助成金が廃止されているので、メリットというのはなくなっている。</p>
橋本委員	<p>目標を大幅に達成している自治体に対して、何か出すとか。倍くらいだしているのでは。</p>
土屋参事	<p>献血感謝のつどいというものがあまして、そちらの方で、実績、年数の方で、感謝状のお渡しがある。</p>
大野委員	<p>表彰ということになりますと、私たち（富津市赤十字奉仕団）が、26日に献血運動推進全国大会で表彰されることとなっている。</p>
野瀬委員	<p>今のお話しとリンクするのですが、県の目標と市の目標がこれだけ離れてしまうと、疑問に思ってしまうので、需要と供給のバランスが開示されていると、比率が低い大都市圏の人にも、意識向上につながるのではないかと。</p>
土屋参事	<p>千葉県献血会議の方では、実績が、〇市さんは何%とまだまだ協力いただいてませんよと出ているので、そちらの市でお願いをしたいと考えているのですが、やはり献血ルームを抱えている市、船橋市・習志野市・千葉市では、目標数値を減らしてくれと意見が出ていたりとしていて、こちらの問題については、なかなか調整がうまくいっていないというのが、現状である。</p>
高橋会長	<p>会議開催にあたりまして、事務局の協議の中でも、これだけ目標値の差が出たときに、県の数値は示すべきなのかと協議はあった。これに関しては、様々な自治体の会議にご出席されていると思いますが、すべての自治体が県・市ともに目標数値を提示しているのでしょうか。逆に、市の目標だけ出させていただいて、この会議を行っても問題はないのかなと思ってる。</p>
土屋参事	<p>逆に、私が出席させていただいた会議は、県目標に対して何%達成できているかというもののだけで、市の方で目標を設定されているのが珍しい。県目標をこれだけ達成して、更にその上を目指してもらっているのが富津市さんにはありがたく思っている。</p>
橋本委員	<p>目標の200%達成ということになりますと、ドライビング・フォース（推進力）が落ちると思う。目標に達していなかったら、協力してくれる方はいると思うが、200%まで行っていると、逆に意識が落ちるのではないかと。</p>

高橋会長	<p>目標の数値に関しましては、今年度はお示しの資料の中で進めさせていただきますけれども、来年以降はまた血液センター様と協議をさせていただきますながら、お示しする資料に関しては、検討させていただきたいということでご理解をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
各委員	<p>了解した。</p>
溝口委員	<p>新たな会場が必要になると思うのですが、検討されているのか。</p>
平野係長	<p>具体的な案は今のところない。今後、先進的な取り組みを実施している自治体等を参考に、血液センターさんと協力して、研究をしてみたいと思う。コロナウイルス感染症の影響で、献血を行えていない会場が何件かあるので、その方々に再度協力いただくことは可能かということで、お話をしていけたらと思う。こちらについては、企業さんですので、決まった方、職員になりますので、一般の方に多く広げるのが、増やす方法としては一番いいと思いますので、初めに申し上げた血液センターさんと協力して、先進的な取り組みを実施している自治体等を参考に研究していけたらと思う。</p>
高橋会長	<p>他にご質疑も無いようなので、令和5年度献血推進協議会事業計画（案）について、承諾いただきたいと思う。</p>
各委員	<p>異議なし</p>
高橋会長	<p>以上で本日の議題を終了とする。 議長の職を解く。</p>
地引課長	<p>続いて次第5、その他。 千葉県献血状況について、千葉県赤十字血液センター土屋様から、ご説明いただきたいと思う。</p>
土屋参事	<p>千葉県の献血の現状なんですけど、資料（千葉県赤十字血液センター令和4年度事業報告）の7ページを開いていただきたいと思う。こちらは、令和4年度の医療機関に届けた血液の本数になる。こちらの資料は、本数となっておりますが、本数と単位で何が違うかと言いますと、昭和60年までは、日本の献血は、200ml献血しなかった。200mlから頂ける血液を1単位ということをやっていた。ですので、400mlは必然的に倍になるので、2単位という形で表示をさせている。 あとは、資料（愛のかたち献血）の5ページになるのですが、血液の製剤を記載している。献血で頂いた血液は、そのまま病院に使</p>

うことはほとんどない。全血製剤とあるが、こちらが、200ml、400mlでの献血そのままですが、全国でも使われることはほとんどない。いただいた血液は、赤血球と血漿に分ける。患者さんの病状に合わせて、必要な成分を輸血する成分献血という形になっている。ですので、いただいた血液も、すべて赤血球と血漿に分けて使用している。皆様が想像する赤血球が、資料（千葉県赤十字血液センター令和4年度事業報告）の7ページで、400ml赤血球製剤の実績数が、162,546本を病院にお届けした形になる。この数値がどのくらいかというと、一年で割ると、一日当たり、約450本必要になる。千葉県内に献血ルームが6か所、献血の移動採血バスが合計で10台になっている。ただ、10台すべてが稼働するわけでもなく、1日に最大7台になりますので、一番多い日で、献血ルームが6か所、バスが7台で合わせて、13か所でこの人数を集めないといけない。ですので、目標として、バス一台あたりが稼働すると、400mlの献血で少なくとも50名お願いしていきたいと、千葉県赤十字での目標になっている。また、200mlは5,017本となっていて、400mlに比べるとかなり数が少ないと思われるかと思うんですけど、病院の方から、200mlの血液の注文はほとんど入ってこない。輸血の効果上げるためには、副作用も考えられますが、800mlの輸血が必要な場合には、200mlの献血だと4本でなく、400mlの献血2本で済ませたいということがあるので、病院さんは400mlの献血を届けてくださいとなるので、献血の方の受け入れも、200mlの受け入れも少し減らしている。割合として、200mlが3%、400mlが97%くらいになってるので、今まで200mlを行ってきたんだけど、体重とかでそれしかできないとよくお話を聞くが、ご理解をいただければということで説明させていただきたいと思う。

同じような表が、資料（千葉県赤十字血液センター令和4年度事業報告）の11ページになる。こちらのページは、千葉県内で献血をしていただいた人数で、400ml献血が152,416本となっている。献血をしていただいた人数の方が少ない。裏を返せば、献血で千葉県内の医療機関に届ける血液が届けられていないという形。これが先ほど言った、少し足りていないという部分なんですけど、医療機関での使用数の方が多くて、献血が少なかった、追いついていないという状況になっている。足りない分はどうしたのかというと、日本の場合、7つの都道府県に分けて、融通しているんですけど、千葉県の場合、関東甲信越ブロックというところに所属しておりますので、そちらの方で他県から血液を融通してもらってる形で、病院の方での供給は行っていることとなる。もともとの予定数が少ないのかって話になってしまうんですけど、成分献血をお願いしていかないといけないので、そういった部分で、目標のバランスは全国的に取っている形ですが、一都三県は、成分献血、献血ルームでの協力を頂ける方が多いのですが、北関東の方になりますと、成分献血が少ないので、その分は一都三県の方でカバーしながら、

逆に赤血球をそちらの方でカバーしながらバランスを取っている形になる。先ほど市長さんからもお話があったんですけど、少子高齢化というお話。やはりこれは献血の大事な形になってきてまして、これが資料の（千葉県赤十字血液センター令和4年度事業報告）の9ページの方になりますが、献血の必要性、普及啓発。これも赤十字では大事な事業ということで取り組みをさせていただいている。私共は、年に4回ほど、ドナー通信という広報誌を出させてもらっているのですが、そちらの方では、献血に協力いただいている企業さんとの打ち合わせをさせていただきまして、企業さんの紹介をしながら、何回献血に協力いただいている企業さんですと紹介ももらっていますので、今後何かそういうことで私たちを取り上げてくださいますというのであれば、お声かけ頂ければ、私たちのマスコット、献血ちゃんを連れて取材の方お邪魔させていただきたいと思う。それから、学域における献血セミナー等の実施ということで、若い方やはり高校生は16歳以上ならできるのですが、それよりもっと小さい小学生、中学生のこれから献血できる方に、血液の必要性、献血の必要性を知っていただくために、こういった出前講座を行っておりますので、こういったところでご理解を頂ければぜひお問い合わせ頂けると、助かる。

それから、資料（千葉県赤十字血液センター令和4年度事業報告）の10ページになりますが、今献血の方は、予約というのを進めると思う。コロナの関係がありまして、献血会場に来場される人数を整えて感染予防につなげたいということで、はじめた部分がかなり定着しまして、こういった予約が進んでいる。イオン富津の献血会場なんですけど、献血のバスがお邪魔する際に、ベッドが4つついたバスがお邪魔しているんですが、ベッド4つのうち、3つが予約という形で押さえている。そうすると、一日に40名から50名の予約がすでに入っている状況になる。ですので、飛び込みの方がなかなかやりにくい状況になっているんですけど、待ち時間を減らす、それから、引き続きコロナの関係で、蜜を減らすということで、こちらの方で進めさせている。

こちら先ほど市長さんからお話が合ったんですけど、マスクのことで、5月8日以降マスクの着用は、ある程度自由になっているのですが、千葉県の場合、献血会場、献血のバスの中では引き続きマスクの着用をお願いしている状況ですので、ご理解をいただきたいと思う。千葉県の献血状況のお話をさせてもらったんですけど、何か質問があればお願いします。

地引課長

何かあれば質問をお願いしたい。

安田委員

献血の年齢制限は、54歳までですか。

土屋参事

献血は69歳までとなっている。ただ、条件がありまして、60歳から64歳までのあいだに、献血経験があれば69歳までできる

	<p>という形。54歳は骨髄バンクかと思われる。併せて、骨髄バンクの登録会も赤十字の方でお手伝いさせていただいているので、ぜひよろしくお願ひしたい。</p>
橋本委員	<p>廃棄せざるを得ないものは、どのくらいありますか。</p>
土屋参事	<p>例えば、富津市役所の献血で100名会場に来ていただいても、10名の方が献血お願いできない。血液の濃さや、血圧が高かったり、お薬を飲まれている場合だったり、お休みいただく形でおおよそ90名くらいの採血者になる。そして、その90名分の血液がすべて使えるかというところでもなく、一度検査を通して、1割くらいがもしかしたら製剤費という形で、使えない血液になってしまうと思う。ですので、90本のうち80本くらいが実際に血液センターに出向できる血液として残ってくるような形になる。</p>
橋本委員	<p>期限切れするのはあるのか。</p>
土屋参事	<p>期限切れはほとんど出ない。赤血球が28日間保存できますが、ここまで血液センターの冷蔵庫に在庫として残っていることはない。仮に、本日献血をさせていただいた血液は、東京の辰巳にあります製造所に送って、赤血球と血漿に分ける作業、それから、輸血用として使えるかの検査を行っている。検査が終わるのが2日間くらいなので、献血から3日目くらいの血液が、病院に出向可能になります。それから2日くらいでほとんど病院に出るので、有効期限が長くても残るってことはなく、5日～10日以内にはすべて出ている。</p>
橋本委員	<p>日鉄で献血を行った際に、一度だけ、期限前で献血が受けられない時があったので、日程調整がうまく回っていない気がした。</p>
土屋参事	<p>400mlの献血で男性は12週間、女性で16週間。3ヶ月～4か月間をあけないといけないのですが、3ヶ月3ヶ月3ヶ月でできるかというところ、一年間に受けられる回数が決まっているので、57週間間を取らないといけないので、日数が少し足りなくなっているのが発生してしまったかもしれない。</p>
橋本委員	<p>印字されているのに引かかんなかったって意味なんですけど。</p>
土屋参事	<p>献血カードの下半分に、次回の可能日が出てますので、そちらの方と、献血可能日がもしかしたら担当の設定ミスかもしれない。</p>
川口委員	<p>感想になりますが、予約制について、若いころから献血をやっているんですけど、昔は予約がなく、待ち時間が多かったので、非常にいいなと思った。</p>

	<p>質問なのですがラブラットで私は予約しているのですが、企業さんの方では、予約制というのはないのか。</p>
<p>土屋参事</p>	<p>企業さんも可能なところでは、予約受付を行っている。ただ、企業さんの職員方だけが対象となりますので、一般の方は入れない予約システムになっている。</p>
<p>石井副会長</p>	<p>千葉県内では、資料によると、若年層の献血が減ってきているという中で、県内の高校や大学、専門学校では実施されているのか。</p>
<p>土屋参事</p>	<p>県内の大学さんには、ほとんどお願いさせてもらっている。大きいところだと、4月の新学期、今月7月の夏休み入る前、11月から12月の冬休みはいる前の年3回お邪魔させてもらっている。千葉大学さんと、4月に月曜から金曜の週5日間。7月も5日間、12月も5日間で年に15回くらいバスがお邪魔しているところもある。</p> <p>専門学校さんもお願ひできる場所は、お邪魔させてもらってるんですが、小さいところだと、献血のバスが入らない、そういったところは、学校さんの中のお部屋、会議室等があれば、そこに献血の資材を持ち込んで、オープン献血というものがあるのですが、そういったことがご理解いただければ、お願ひをさせてもらっている。</p> <p>高等学校さんですと、今お願ひできている高校は、ほとんどない。献血のする際に問診をさせていただくのですが、性的接触のことを聞かないでくれとあったり、週5日制になってからカリキュラム的に献血のために時間を割くことができとあったりして、おねがいができなくなっている。それと同時に、200ml献血の需要がかなり減ってきている。高校生16歳男女、17歳の女の子、こちらの方は200mlの献血しかお願ひできない。そういった部分で、私共が積極的に、高等学校さんにお願ひをさせてもらったところで、200mlの献血をたくさんいただいても使い切れなくなってしまう。こちらの方も若年層の献血を増やしたいんですけど、200mlの献血をいただくとこちらも使い勝手がということがあって、うまく進んでいかないってところがある。</p>
<p>石井副会長</p>	<p>高校生などは、献血ルームに行くよう啓発をしていくってことか。</p>
<p>土屋参事</p>	<p>そうですね。セミナー等で献血の必要性をご理解いただいたうえで、400ml献血がお願ひできるようになったら、来ていただきたいというような形には、進めていければと考えている。</p>
<p>地引課長</p>	<p>以上で本日の会議を終了する。</p> <p>令和5年富津市献血推進協議会の閉会を宣言</p>